

# 人権尊重の精神に立った学校づくり

熊本県教育庁教育指導局 人権同和教育課

6月12日（火）に実施した「平成30年度校長人権教育推進会議・県立学校人権教育主任研修」の概要についてお知らせします。

## 講演

（合同開催）

講師：上越教育大学 梅野 正信 理事兼副学長

演題：人権尊重の精神に立った学校づくり



- 現在の社会問題は多くが人権の課題である。
- 日本の人権教育は同和教育から始まった。
  - 人権侵害の痛みを「想像」する力を大切に、具体的な事例を見据えながら取り組まれてきた。
- 人権教育の精神は、ア尊厳、イ寛容、ウ参加型、エ多様性というキーワードで国際的な条約や宣言の中に示されてきた。特に、最近は多様性の観点から個別的な人権課題に対する法律が施行されてきている。
- 人権教育の目標や取組について、[第三次とりまとめ]の中での基本的なものとして
  - ・ すべての学校で取り組まれている教育そのものが人権感覚を育てている。
  - ・ 人権教育は教育活動全体を通じて推進する。
    - 学習指導要領や生徒指導提要等の中にも人権教育の要素が示されている。
- 人権教育は学校の基盤、社会の基盤をつくる教育である。
- 学校における人権教育の役割として、子どもを育てる人権教育もあるが、教師を育てる人権教育もある。
  - ・ 教師は、児童生徒を指導することを通して学び、成長している。
  - ・ 教師は、指導する楽しさから自らを変えていく。
  - ・ 児童生徒とともに、人権教育に取り組む教師を褒めて励ます。
- 熊本は人権教育を大切にしてきた県である。先生方には自信を持って人権教育を進めていただきたい。

## 実践発表

（校長人権教育推進会議）

【多良木町立多良木小学校】（平成29・30年度文部科学省人権教育研究指定校）

- 研究指定校として、「自分とともに他の人のよさも認め、大切にしよう多良木っ子の育成」をテーマに掲げ、「かかわり」をキーワードに自己理解・他者理解を図る取組から「人と人のつながりを実感できる子どもたち」を育成することで様々な人権問題を自分のこととして考え、互いを認め合う意識と課題解決に向けて正面から向き合っていく行動力を身に付けた子どもたちの育成が図られている。

※研究発表会：平成30年11月6日（火）開催予定

【荒尾市立荒尾第四中学校】（平成29年度人権教育フォーラム実践発表校）

- 子どもたちの実態から学校の課題を明らかにされ、すべての子どもの人権が保障される環境づくりをビジョンに掲げ、校長のリーダーシップのもと三つの観点（環境づくり、人間関係づくり、学習活動づくり）から組織的に取り組まれるとともにPDCAサイクルを活かし、人権教育によって学校を立て直され、子どもたちの変容につながっている。